



A分科会 「士会活動と女性」

1 日目全体会では全建女の20年をふりかえりましたが、A分科会では、各单位士会の20年を振り返って、全建女での交流の成果はどうだったか、これからの全建女を自分たちのものとして考えたときにこのままでよいのか、問い直す場として位置づけながら議論を進めてまいりました。



コメンテーターは、福島県建築士会の菅野真由美さんに昨年開催されました、「第20回女性建築士のつどい「これまでも これからも」」の報告をしていただきました。

昨年は20回記念大会として東京より建築家の手塚貴晴氏、由比氏ご夫妻の講演を中心に集い、会員による手作りの食事など盛りだくさんの集いを報告。また会員有志作成のDVDでつどいの20年間の素敵な出会い、思い出を披露され、集いの感動を出席者みんなが共有し、参加者からは活発な支部活動とその統合力を高く評価されました。



もうひとつは、同じく今年20周年を迎える滋賀県建築士会の発表です。

滋賀では、平成3年より続けられているdoシリーズという活動について河島明美さんに滋賀の20年をたどっていただきました。その中でも大変好評で成果を上げたシリーズ伝統工法勉強会を担当しました伊東裕子さんが報告。

構造力学による安全チェックや改正基準法との課題など浮き彫りにしながら、この勉強会を通して建築士・住まい手・行政・学生も参加の開かれた会を企画して大きな成果をあげることができ、そのことが会員増強にもつながったことを報告。



意見交換会では各地女性委員会での活動報告がなされ、大阪のお試し会員制度や北九州の若い会員向けの集い、神奈川の女性の枠をはずして青年との合同事業など発展的に継承していく取り組みが報告され、全建女がその交流の最大のネットワークであることを再認識し合いました。(田井中記)